

2016年3月期
第3四半期決算説明資料
(2015年4月 - 2015年12月)

Pyramid
「創造をチカラに世界への挑戦」

2016年2月

日医工株式会社

(東証1部 証券コード4541)



ミッションステートメント、第6次中期経営計画

我々は、我々のジェネリック医薬品が世界の患者・薬剤師・医師・卸売業者・製薬企業に必要とされ、提供し続ける為に自ら存続する努力を行い、ジェネリックメーカーとして世界で卓越する。



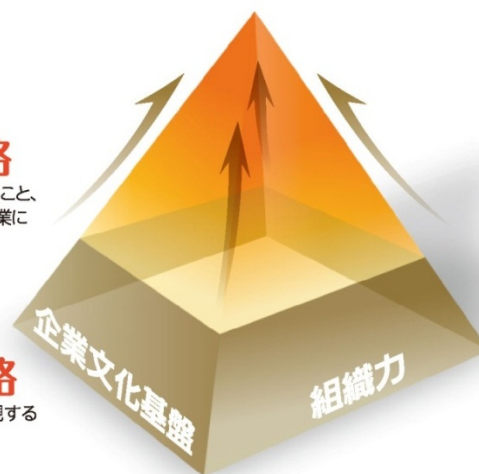
ビジョン → ジェネリック世界TOP10

ブランド戦略

お客様から信頼され選ばれること、そして社員が誇りを持てる企業になるための取り組み

ユーザー戦略

お客様の要望を迅速に実現することへの取り組み



コスト戦略

無駄をなくして、より安く造ることへの取り組み

差別化戦略

お客様から他との違いを認めていただくことへの取り組み

連結会計年度 対前年比

(百万円)

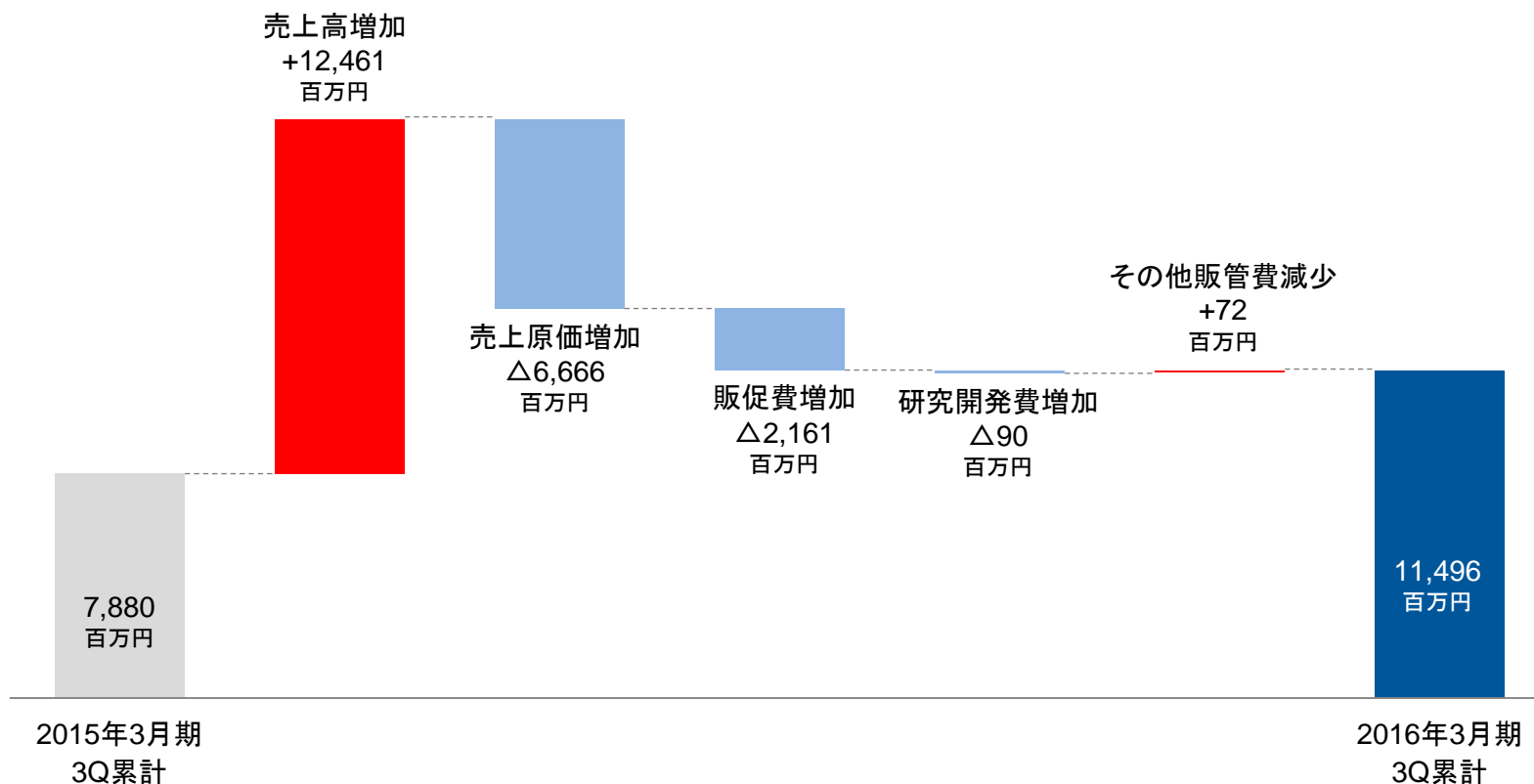
	2015年3月期 3Q	売上比	2016年3月期 3Q	売上比	前年同期比
売上高	95,860	-	108,320	-	113.0%
売上原価	60,217	62.8%	66,883	61.7%	111.1%
売上総利益	35,652	37.2%	41,450	38.3%	116.3%
販管費	27,772	29.0%	29,953	27.7%	107.9%
人件費	4,259	4.4%	4,614	4.3%	108.3%
研究開発費	3,503	3.7%	3,594	3.3%	102.6%
販売促進費	12,043	12.6%	14,204	13.1%	117.9%
その他	7,967	8.3%	7,541	7.0%	94.7%
営業利益	7,880	8.2%	11,496	10.6%	145.9%
経常利益	7,787	8.1%	11,242	10.4%	144.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,188	5.4%	10,442	9.6%	201.3%
設備投資額	4,598		8,623		187.5%
減価償却費	3,588		3,733		104.0%

連結会計年度 対計画比 (通期)

	2016年3月期 決算予測値		2016年3月期 3Q		(百万円)
		売上比		売上比	進捗率
売上高	140,000	-	108,320	-	77.4%
売上原価	86,900	62.1%	66,883	61.7%	77.0%
売上総利益	53,100	37.9%	41,450	38.3%	78.1%
販管費	40,600	29.0%	29,953	27.7%	73.8%
営業利益	12,500	8.9%	11,496	10.6%	92.0%
経常利益	12,100	8.6%	11,242	10.4%	92.9%
親会社株主に帰属する 純利益	8,000	5.7%	10,442	9.6%	130.5%
設備投資額	11,200		8,623		77.0%
研究開発費	5,900		3,594		60.9%
減価償却費	5,400		3,733		69.1%

※2015年11月4日時点の公表値

営業利益増減要因



売上増減の主な要因

- GEの数量増による効果
- AG・新製品発売による効果
- 長期収載品の数量減

売上原価増減の主な要因

- 生産量増による固定費率低下
- 子会社の原価率低減

販管費増減の主な要因

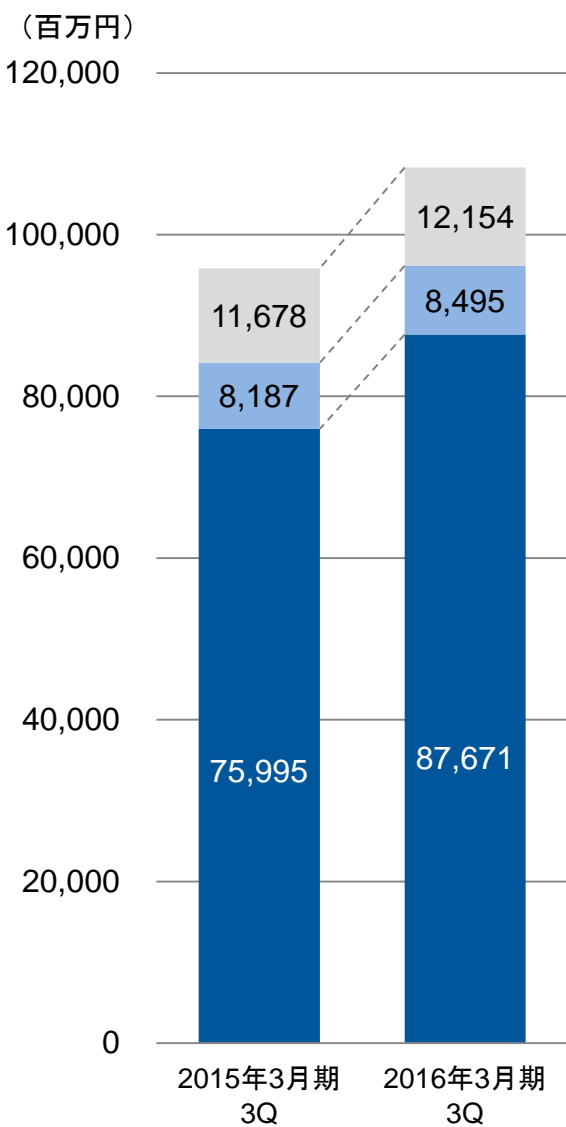
- 販促費率の増加
- 研究開発費の未消化

通期業績予想の修正

今後のバイオシミラー開発投資、ジェネリック医薬品80%シェア目標達成のための設備投資等、資金需要の高まりから保有資産の効率的な運用を図るため保有するBinex社（韓国）株式全株を売却（業務提携は継続）。この株式売却により36億78百万円の特別利益を計上したことなどを勘案し、親会社株主に帰属する当期純利益の予想を80億円から110億円に上方修正。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	140,000	12,500	12,100	8,000	133.77
今回修正予想(B)	140,000	12,500	12,100	11,000	183.92
増減額(B - A)	-	-	-	3,000	
増減率(%)	-	-	-	37.5	
(参考)前期連結実績 (2015年3月期)	127,021	9,619	9,615	6,592	110.26

販売ルート別業績比較（連結）

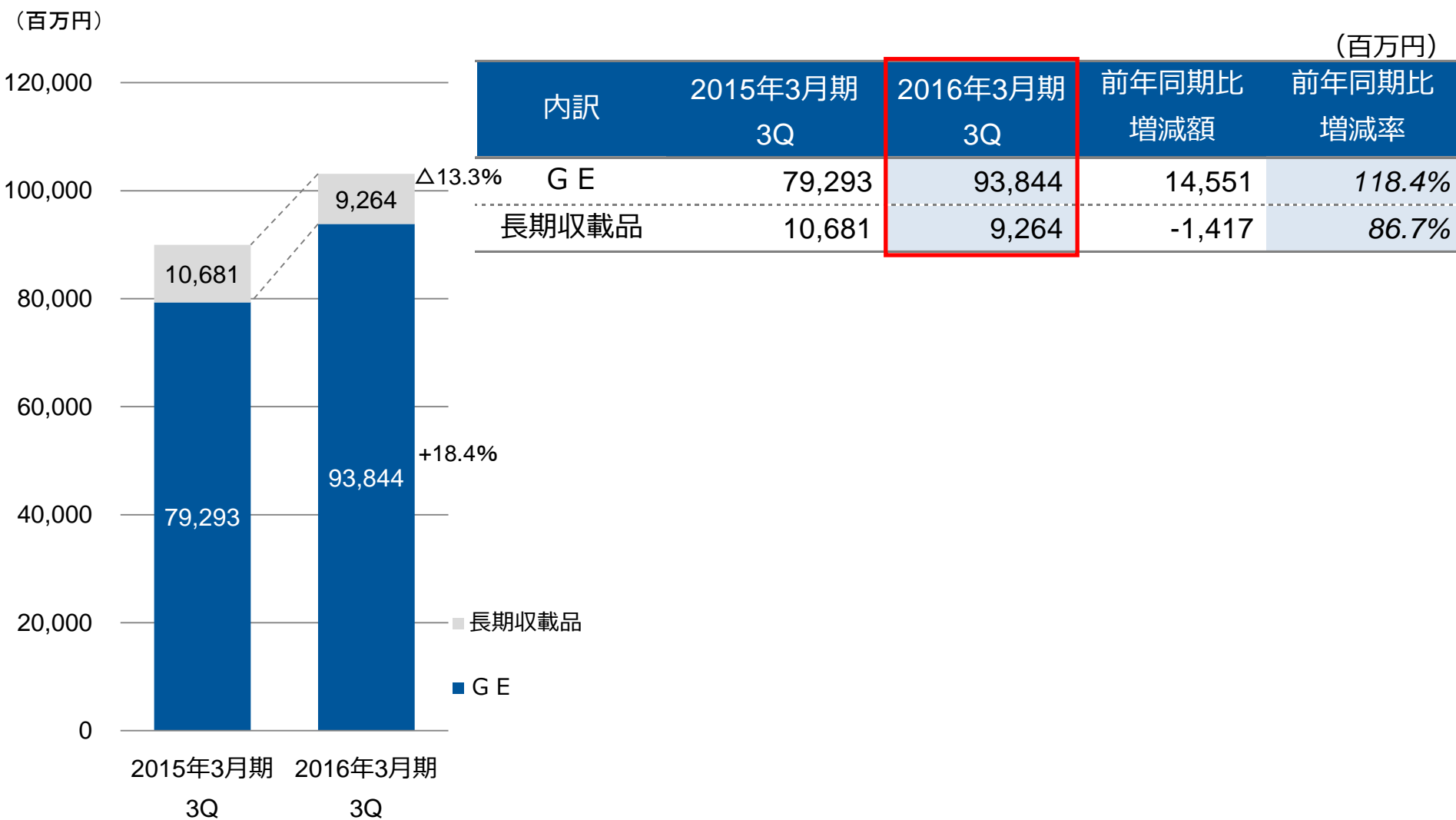


内訳	2015年3月期3Q		2016年3月期3Q		前年同期比	
	売上	構成比	売上	構成比	増減額	増減率
卸	75,995	79.3%	87,671	80.9%	11,676	115.4%
代理店	8,187	8.5%	8,495	7.8%	308	103.8%
その他	11,678	12.2%	12,154	11.2%	476	104.1%
合計	95,860	100.0%	108,320	100.0%	12,460	113.0%

(百万円)

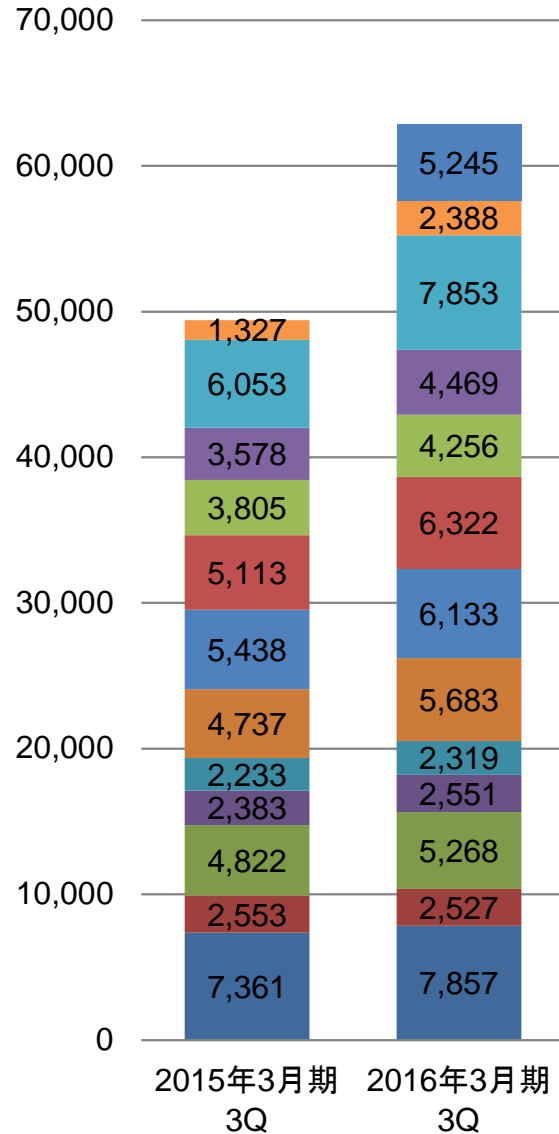
■ その他
■ 代理店
■ 卸

製品区分年度別業績（連結）



収載年度別業績比較

(百万円)



(百万円)

収載年度	2015年3月期 3Q	2016年3月期 3Q	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
2015年	-	5,245	-	-
2014年	1,327	2,388	1,061	180.0%
2013年	6,053	7,853	1,800	129.7%
2012年	3,578	4,469	891	124.9%
2011年	3,805	4,256	451	111.9%
2010年	5,113	6,322	1,209	123.6%
2009年	5,438	6,133	695	112.8%
2008年	4,737	5,683	946	120.0%
2007年	2,233	2,319	86	103.9%
2006年	2,383	2,551	168	107.0%
2005年	4,822	5,268	446	109.2%
2004年	2,553	2,527	-26	99.0%
2003年	7,361	7,857	496	106.7%

今後導入予定のGE使用促進策等について

- **薬局における後発医薬品調剤体制加算について新しい数量シェア目標を踏まえて算定要件を見直す。また、特定の医療機関に係る処方せん割合が高く、後発医薬品の調剤数量の割合が低い薬局については基準調剤加算を算定できないこととする。**
- **医療機関における後発医薬品の使用促進のため見直しを行う。**
 - ・ 後発医薬品使用体制加算の評価について後発医薬品調剤体制加算と同様の計算式に改める。
 - ・ 院内処方における後発医薬品の使用促進の取組を評価する。【新設】
 - ・ DPC対象病院における後発医薬品係数の評価上限を見直す。
 - ・ 一般名での処方を促進するための評価の見直しを行う。
 - ・ 処方時に後発医薬品を銘柄記載した上で変更不可とする場合はその理由を記載する。
- **新規後発医薬品の薬価は「先発品の100分の50を乗じた額（内用薬については銘柄数が10を超える場合は100分の40を乗じた額）」とする。**
- **後発医薬品への置換えが図られていない長期収載品の薬価における「特例的な引下げ」の対象となる置換え率を「30%未満」、「30%以上50%未満」、「50%以上70%未満」にそれぞれ引き上げる。**

注意事項



本資料のいかなる情報も、弊社株式購入や売却などを勧誘するものではありません。本資料に記載されている業績予想及び将来の予測等に関する記述は、資料作成時点での入手された情報に基づき弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。

従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おき下さい。

本資料に関するお問い合わせ先



日医工株式会社 社長室
TEL. 076-442-7026
E-mail ir@nichiiko.co.jp